

2024.11.17 @平城公民館
成果報告会

御荘事前復興まちづくり提案

東京大学大学院
復興デザインスタジオ
御荘班

これまでの活動

- スタジオでは4月に現地調査、8月に現地報告、11月にもう一度報告/WSの予定

東大
スタジオ

4月 現地調査
with 南宇和高校

7月
演習発表

8月
現地発表&WS

(予定) 11月
現地発表&WS

提案アドバイス
視点の提供

地元目線の意見



南宇和高校
防災地理部

4月 現地調査へ参加

7月
東北視察、まちあるき

8月
現地発表&WSへ参加

東北事例から学修

復興デザイン会議での発表
住民の方への発信

本日の流れ

第一部 「事前復興とは何か？」

第二部 提案発表

(休憩)

ワークショップ テーマ①「災害後の避難生活での『余暇』を考えよう」

テーマ②「発災10年後の御荘のあり方を考えよう」

まとめ

事前復興とは何か？

防災活動と事前復興の違いは？

防災バッグの準備



防災倉庫の設置

避難場所の確認



事前復興とは？

1. 個人や家族の中で完結するものではない

2. 「命が助かれば良し」 だけではない

なぜ事前復興が必要なの？

事前復興の取り組みが行われていないと、

- 仮設住宅の敷地選び～建設が難航、入居の遅れ
リスクの高い土地を選ばざるを得なくなるケースも
 - 復興の議論が長期化する
(行政、住民、皆んな被災者になる。皆んな意見が異なる)
 - 避難所や仮設住宅で、住民間のつながりや福祉機能がおざなりに
- その結果、
- 「生活再建、地場産業復興が遅れる」「人口流出が加速する」
- 「町外に避難した人が戻ってこない」など、**町の自立が困難な状態に**

これらの課題を事前に**話し合い**、対策を練ること＝**事前復興**が必要



仮設住宅を津波浸水域に建設予定 石川県「土地がない」[能登半島地震][石川県]:朝日新聞デジタル
<https://www.sankei.com/article/2024-0923-WF4FRPTJMVOPDOPHSNKXDX4KCY/>



【一覧掲載】仮設住宅42% 浸水や土砂災害リスク 能登半島地震 | NHK | 令和6年能登半島地震
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240702/k10014499091000.html>

**Q. 能登では事前復興計画を策定
していた自治体数は？**

A. 0でした

能登で何があったか？



戻らない住民（若年層）



仮設住宅が再被災

“今後9年間の復興計画の素案がまとまったのは地震発生から4カ月以上たった5月下旬だった。住民との対話やアンケート調査を進め、最終的な計画が完成するのは年末になるという。
（中略）

町担当者は「**事前復興計画があれば、取り組みの全体像がみえていたかもしれない**」と語る。”

災害に備えた事前復興計画、着手6割止まり 能登の被災地も進まず - 日本経済新聞
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE263D00W4A420C2000000/>

事前復興って具体的にどんなものがある？

A. こういう派手なものもあるけど.....



高台整備事業について - にぎやかな過疎の町 美波町公式ホームページ
<https://www.town.minami.lg.jp/docs/794.html>

第1問

2007年の能登半島地震で増加した空き家を活用した輪島KABULET(2018~)にはどのような機能があるでしょうか？

1. 温泉
2. 飲食店
3. フィットネスクラブ



全ての機能があります！①②③

全ての人が「ごちゃまぜ」に共生する街づくりを目指した施設で、今年1月の能登半島地震後も、地元の復興を支える場所として機能。

温泉は1月17日から営業が再開され、初めは福祉避難所として、その後一般利用も再開。

蕎麦処ではビールを楽しめ、フィットネスクラブでは避難生活の心身をリフレッシュできたりと、輪島の人々を支えている。

→ 「居場所」の重要性



第2問

事前復興に役立つとされているこちらの施設、
普段はどのような機能を果たしているでしょうか

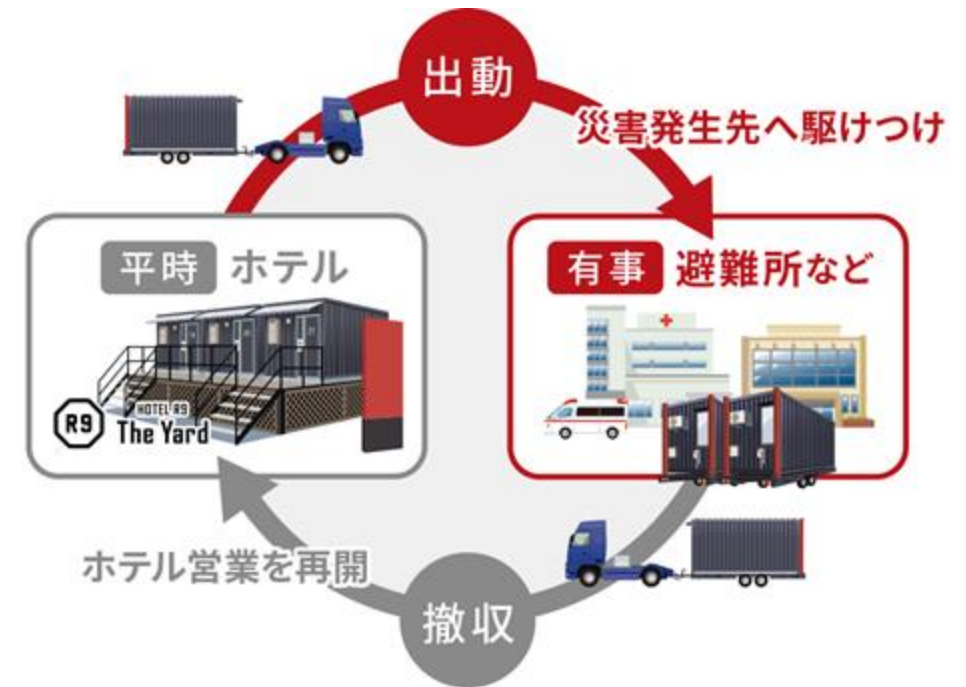
1. カラオケボックス
2. ホテル
3. 貸し倉庫（トランクルーム）



ホテルとして機能します！②

普段はホテルの客室として利用され、
災害時には被災地において**仮設宿泊所等**としても役割を果たすことが期待される、
建築用のコンテナモジュールを活用した施設。

事業者と全国の自治体との間では続々と
災害時連携協定が結ばれている。
公民連携の事前復興の一例。



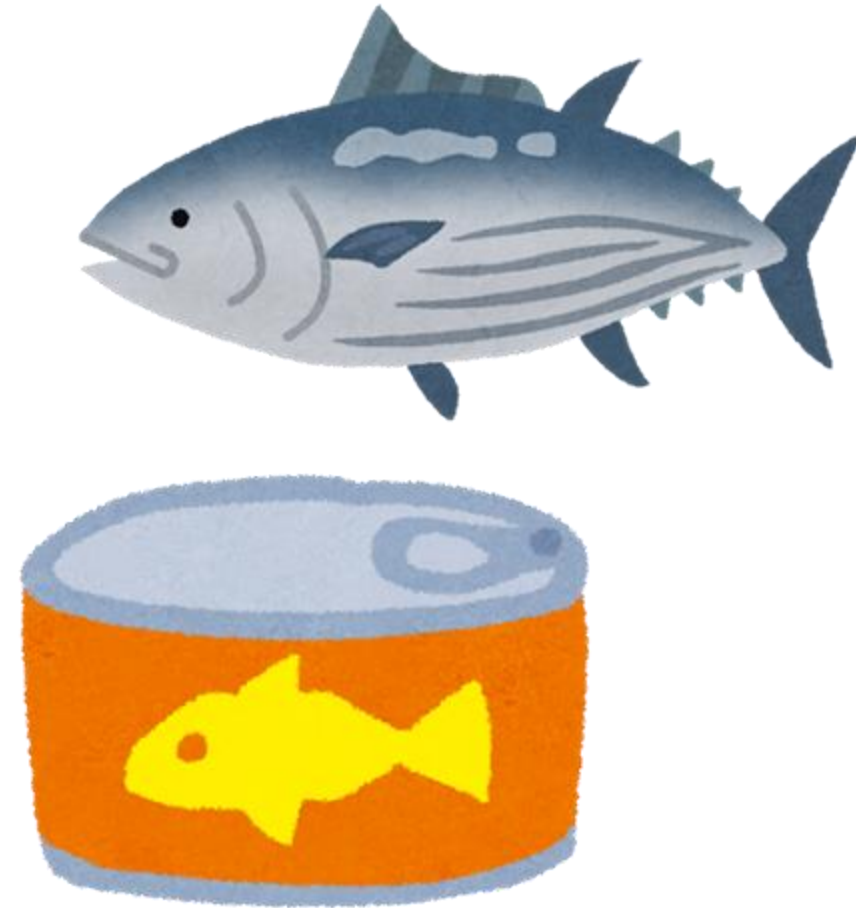
→災害時のための施設を平時に商業利用する

https://www.dvlp.jp/lp/rescue_hotel/
R9 Rescue HOTEL ホームページより

第3問

黒潮町では34mの津波が想定されています。街はどのような事前復興策を行っているでしょう？

1. 有名アーティストとコラボして防災ソングを作った
2. 小中学校に「防災」の科目を新設した
3. 津波の想定高さをブランドにして缶詰を作った



缶詰を作っています！③

黒潮町は**34m**という国内最大級の津波高が想定された黒潮町では、6基の津波タワーの設置や防災教育の促進のほか、**缶詰製作所の設立**に挑戦。東日本大震災の教訓から8大アレルギー不使用にこだわった缶詰は、津波高である「**34m**」を逆手にとってブランドに転換している。



人と自然の付き合い方を考える黒潮町防災ツーリズム
<https://kuroshio-kanko.net/bousai/>

→地域の危機を「ブランド」として内外へ発信

まとめ：事前復興って結局なに？

- 事前復興の事例はまだ数が少ないが、よく見られるものは
 - 高台移転など、災害に強い市街地を事前に造る（ハード整備）
 - 災害時の行政の対応指針や動きを明確にする
 - 災害後にどんな街を作りたいか、復興像を明らかにする

でもそれだけでなく.....

- どうせやるなら災害前の普段の生活から役立つものにしたい！
- 人口減少が著しい地域の活性化につなげたい！

「まちづくり」の一環としての事前復興の取り組み

提案

住み続け**た**くなる
×
住み続け**ら**れる

提案コンセプト 住み続け**た**くなる × 住み続け**ら**れる

住み続けたいと
思えることが前提

住み続け**た**くなる

- 日常生活で街への愛着が高まる仕掛け
- 街の「居場所」不足解消

本格復興期

- 多様な住宅再建の形を選べる
- 地域の復興拠点としての「居場所」の維持
- 遍路文化とコミュニティの回復・継承

住み続け**ら**れる

- 仮住まいの早期提供
- 学校教育の早期再開
- 避難生活での「居場所」の確保

発災後も住み続け
られることも必要



災害時に生じる課題

学校が再開しないので都市部に転居するしか……
避難所の生活環境が悪くて町では暮らせない……

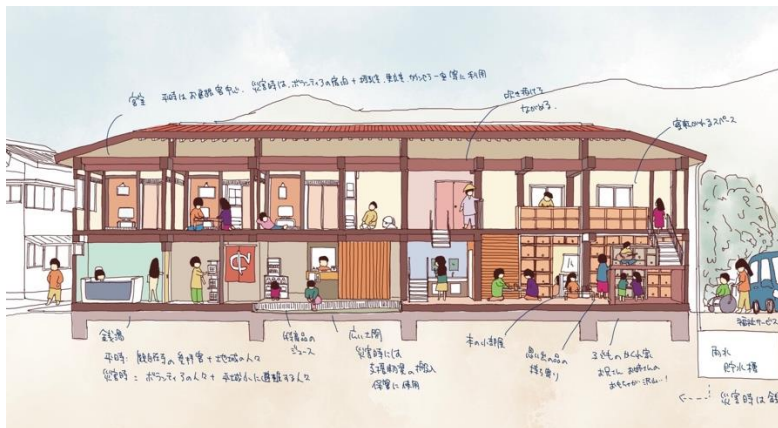


地域の現状の課題

放課後の遊ぶ場所がスーパーの一角だけ……
職場以外で作業したいけど、場所がない……

提案

1. 遍路宿再興



- 気軽に使える**居場所**作り
- **遍路文化**の継承
- 外部とのつながりを育む

御荘の魅力を引き出す
→ 「住み続けたい」

2. 仮設住宅



- **学校外**で仮設住宅を整備
- **要支援者**の生活環境を優先整備
- 建設用地の**事前協定**

教育早期再開と要支援者ケア
→ 「住み続けられる」

3. 復興後のまち



- **旧市街地**を新たな御荘の中心に
- **コンパクトで便利な街**の実現
- 中洲の農地・公園への転用

将来像を見据えた
土地利用の議論

提案1 遍路宿再興＜狙い＞

遍路宿を小規模拠点×宿泊施設として再興
→災害前の地域への愛着創出と発災後の復旧拠点に

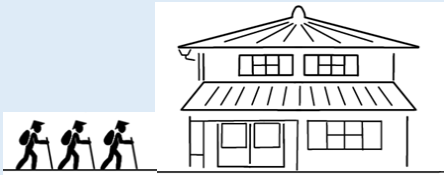


外部との**繋がり**×地域の**文化的資源**&地域内の「**居場所**」

提案1 遍路宿再興<運営>

多様な主体が参画する
地域に根ざした拠点に

事業主体：遍路宿

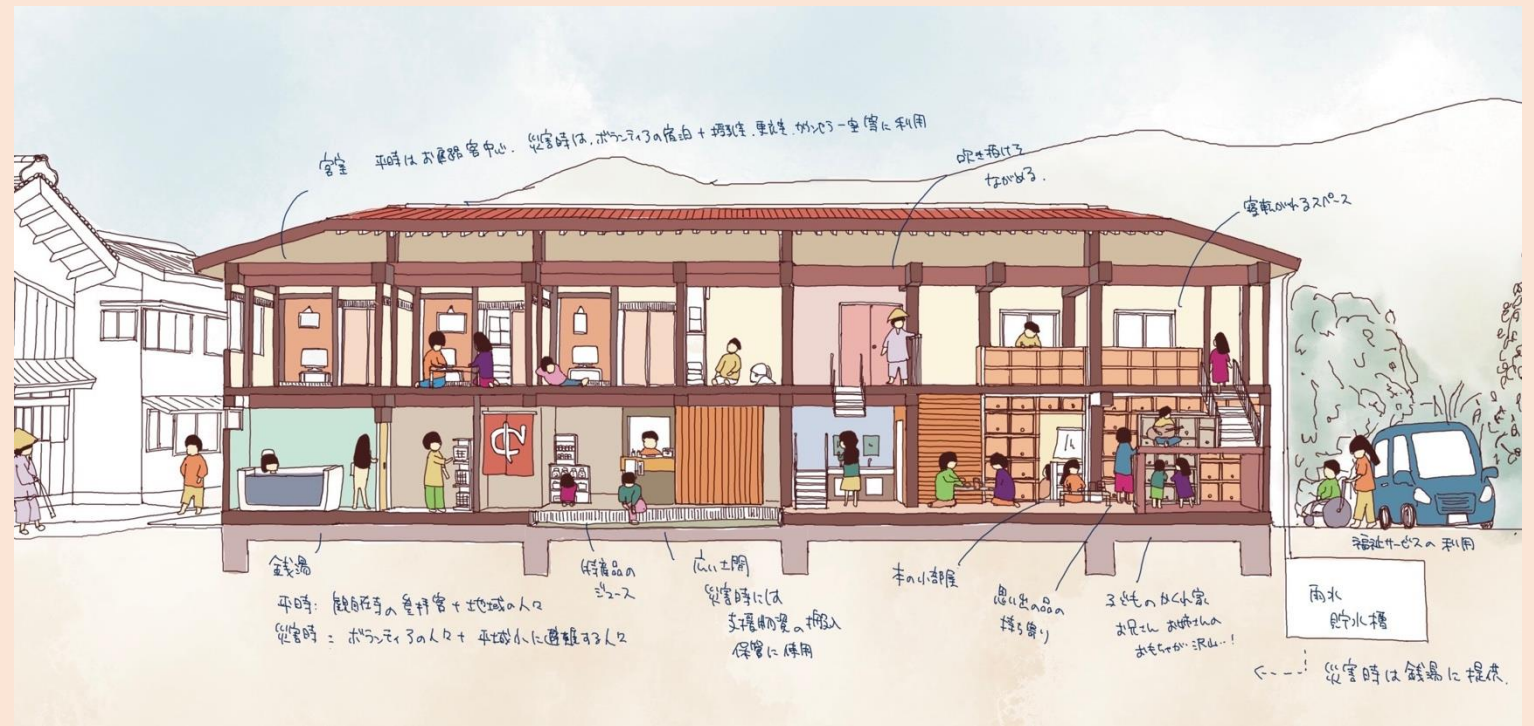


- ・建設・運営費の一部負担
- ・シロアリ等建物検査

- ・公共的空間の提供
- ・災害時の施設開放



運営補助：行政



日常の居場所、情報発信

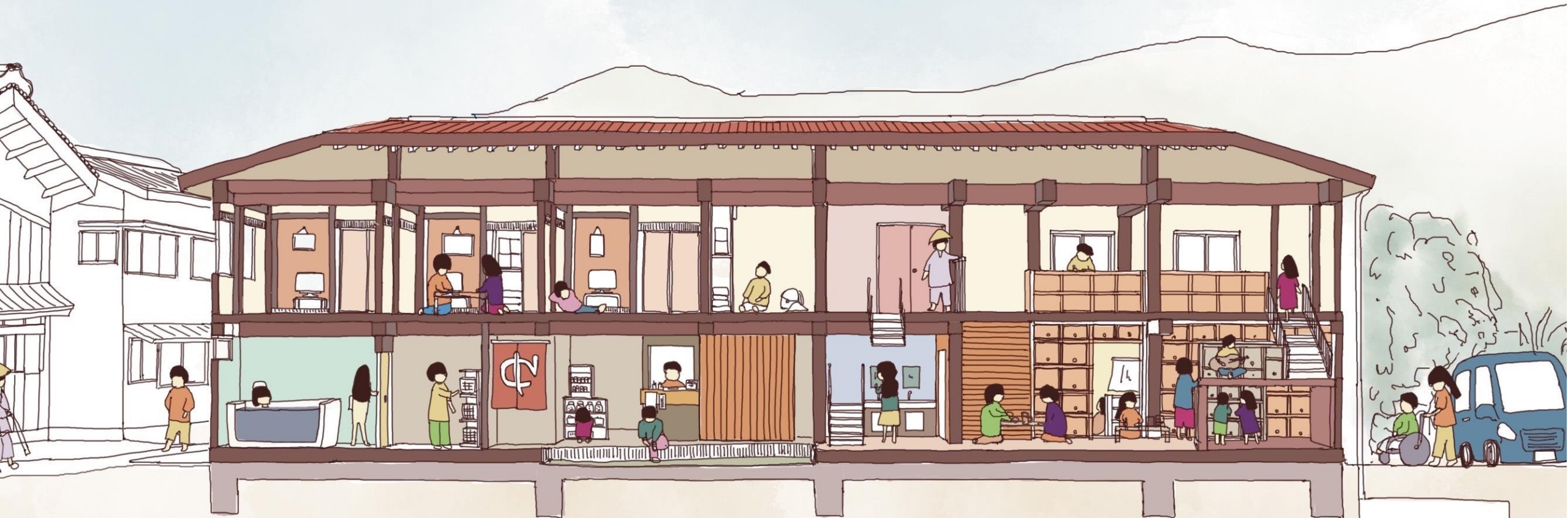


住民・高校生スタッフ



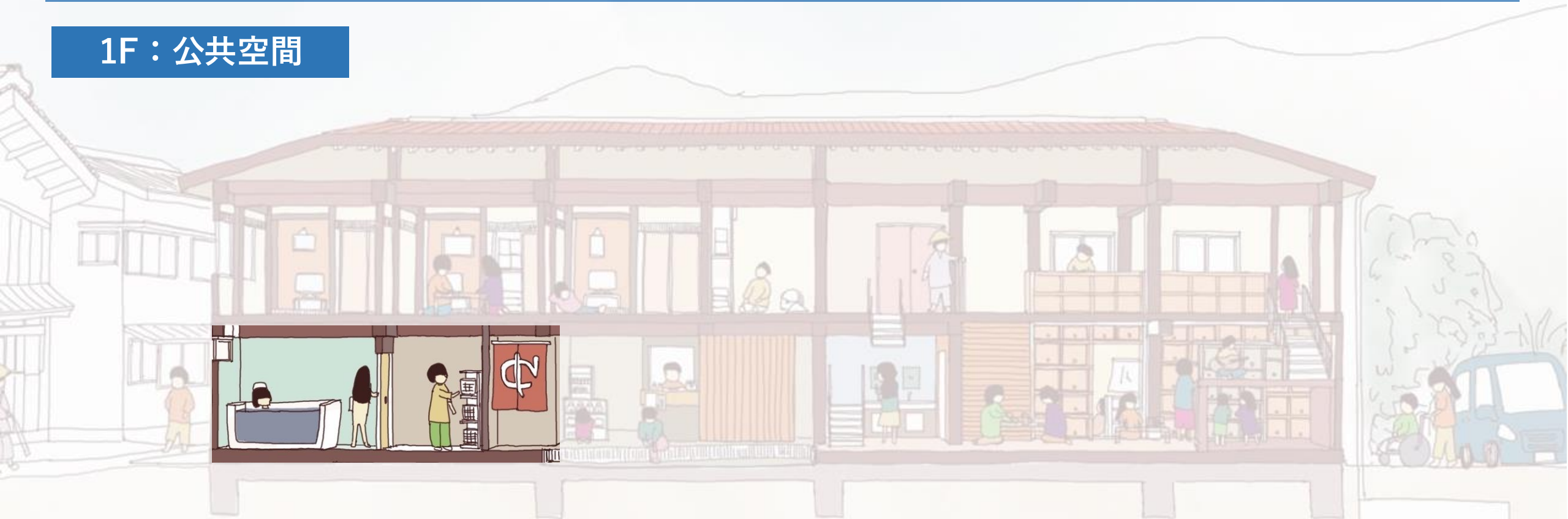
防災教育、災害時の拠り所

提案1 遍路宿再興<設計>



提案1 遍路宿再興＜設計＞

1F：公共空間



■ 銭湯

雨水＋浄水槽で災害時にも使えるように

提案1 遍路宿再興＜設計＞

1F：公共空間



■ 土間
物資保管、工作
災害時は物資の共有場所に

提案1 遍路宿再興＜設計＞

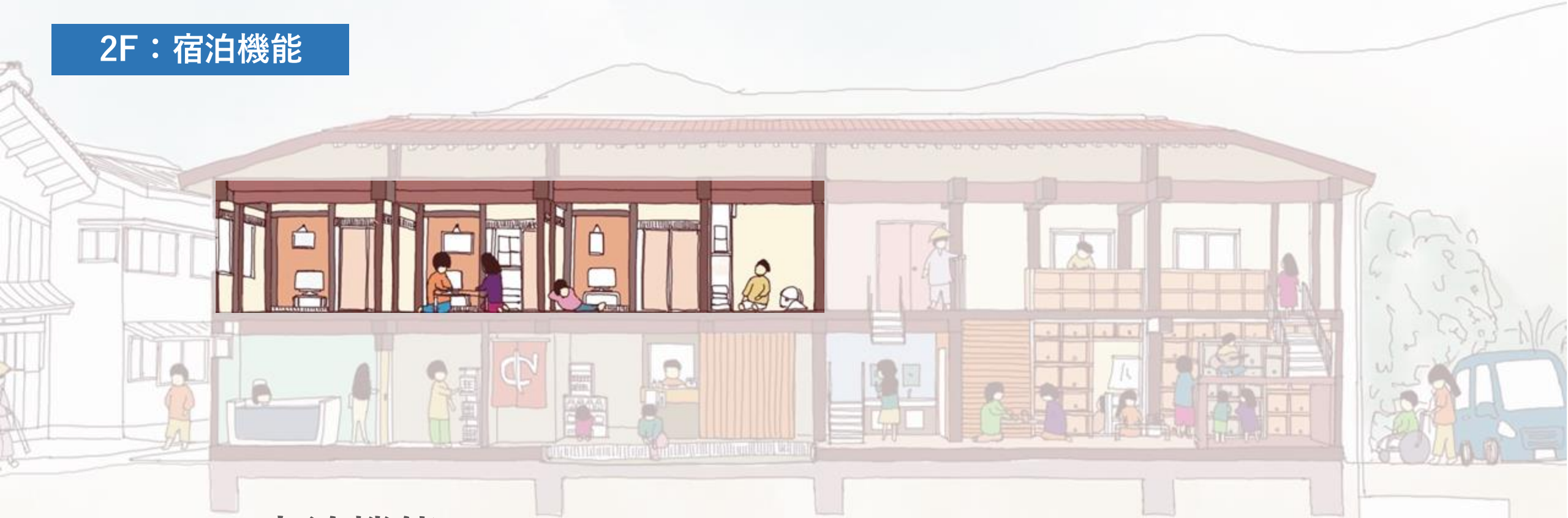
1F：公共空間



■街かどりビング
様々な居場所・モノの事前避難

提案1 遍路宿再興＜設計＞

2F：宿泊機能



- 宿泊機能
- 平時は遍路客
- 災害時は診療・相談所・ボランティア宿泊所等に

提案2 仮設住宅の整備

- 要支援者向けの応急仮設住宅を
学校校庭に早急に整備
 - ・ 学校早期再開と要支援者サポートの両立
- 一般向け仮設住宅は
学校外の旧市街地付近にまとめて建設
 - ・ 通い片付けの促進や住民間コミュニティ維持



①避難所での生活



②仮設住宅での生活



③恒久住宅での生活

発災

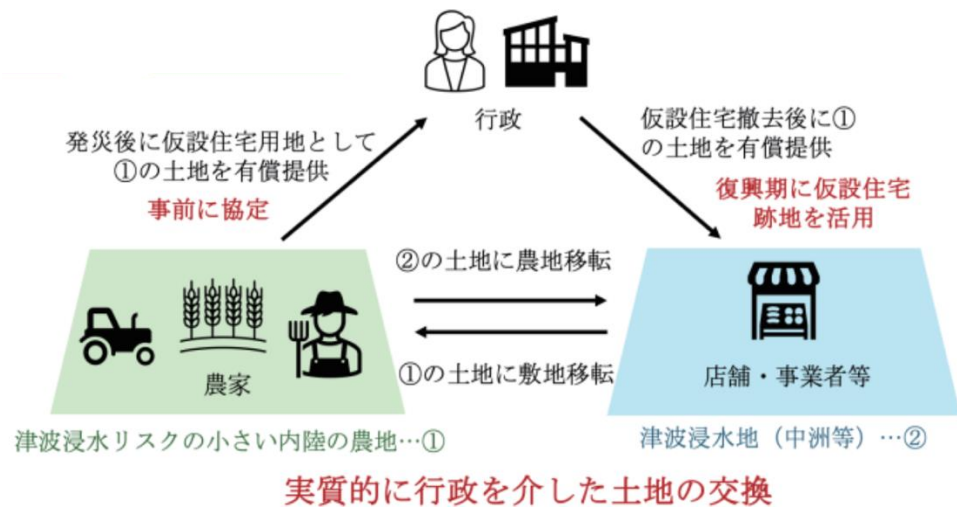
避難所開設

要支援者向け仮設住宅を学校敷地内に整備
一般向け仮設住宅を整備

旧道沿いに災害公営住宅、
自主再建用地等を整備

提案2 仮設住宅の整備

・所有者と事前協定を結び用地を確保



・恒久利用可能なRC基礎&木造タイプ



熊本や輪島で設置された
恒久利用型

例えば長月川沿いの農地に整備



旧市街地から近い

土砂崩れ・河川災害から安全

- ・通いで自宅片付けが容易
- ・能登では豪雨で仮設住宅が浸水
- ・買い物面で便利

提案3 復興後のまち<広域>

- 中洲低平地は被害が特に顕著→復興期には**旧道沿いに居住地を集約**
- 低平部は商業施設のほか農漁業や公園用地等として利用



提案3 復興後の区画案

例：御荘の2/3の人口が旧道沿いで生活再建した場合



～休憩～

ワークショップ

テーマ① 災害後の避難生活でも続けたい『日課』は？

目的

「最低限命を繋ぐ」避難生活で軽視されがちな、QOLを向上させる『日課』に気づく。そして、どのような日課が避難生活でも行えると良いか、その日課は避難生活中にどのように実現可能かを提案した遍路宿を軸に考える。



NPO法人カタリバによる
「みんなのこども部屋」



金沢市に置かれた
避難者交流・相談施設
「あつまらんけー能登」

「**住み続ける**」には、
日常的な居場所を
用意することが大切

テーマ① 災害後の避難生活でも続けたい『日課』は？

内容

普段の趣味や日課をもとに、「避難生活でもできると嬉しい」ということを列挙。
「新しい遍路宿」の土間や街かどリビングで実現可能な取り組みを探す。

Step1

「災害後の避難生活」で出来なくなる日課を洗い出す

例：映画やドラマを観る

Step2

1を避難生活で実現するため、
「遍路宿に何があるといいか」
「遍路宿にどんな取り組みがあるといいか」を考える

例：機器の破損や特番放送で、
ドラマが見れなくなる

Step3

「災害前から遍路宿で準備できるもの」として
何が可能かを考える

例：プロジェクターや
自家発電機を用意しておく

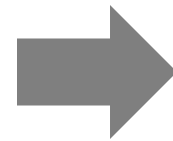
テーマ② 発災10年後の御荘の在り方を考えよう

目的

中長期的な復興のシナリオとして、「**実際にありうる復興形態**」についてイメージを深めるとともに、「**復興後の街のかたちを議論することの大変さ**」を疑似体験する

復興形態は様々あり、
それぞれが一長一短である

発災時には行政も住民も皆被災者。
その極限状態で多様な意見をまとめて
ベストな復興計画を作るのは非常に難しい。



事前から**中長期的な街のあり方**について共通認識
を持っておくことが大切

テーマ② 発災10年後の御荘の在り方を考えよう

内容

住む場所や街の中心がそれぞれ異なる、4つの中長期的な復興のシナリオを用意。
各シナリオのメリットやデメリットを比較し、最終的に一案を班で決める。

方法

Step1

4 シナリオの説明

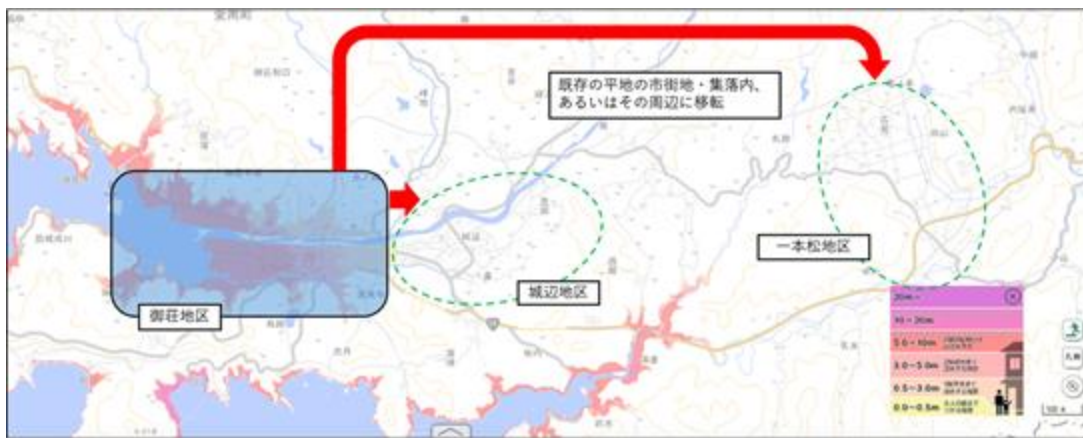
Step2

それぞれのシナリオで
自分が生活した際の
良い点・悪い点を考える

Step3

「実際にあり得そうな
シナリオ」を一つ選ぶ

①一本松・城辺（町内他地域）移転シナリオ



大規模な山地の造成をせず、
町内内陸部の他地域に街ごと移転して居住を続ける

▶ メリット

- ・ 津波の心配が全くない場所に住める
- ・ 愛南町内の市街地が集約され、コンパクトで便利になる
- ・ 移転先の地域では商業機能や公共交通の利便性が向上

▶ デメリット

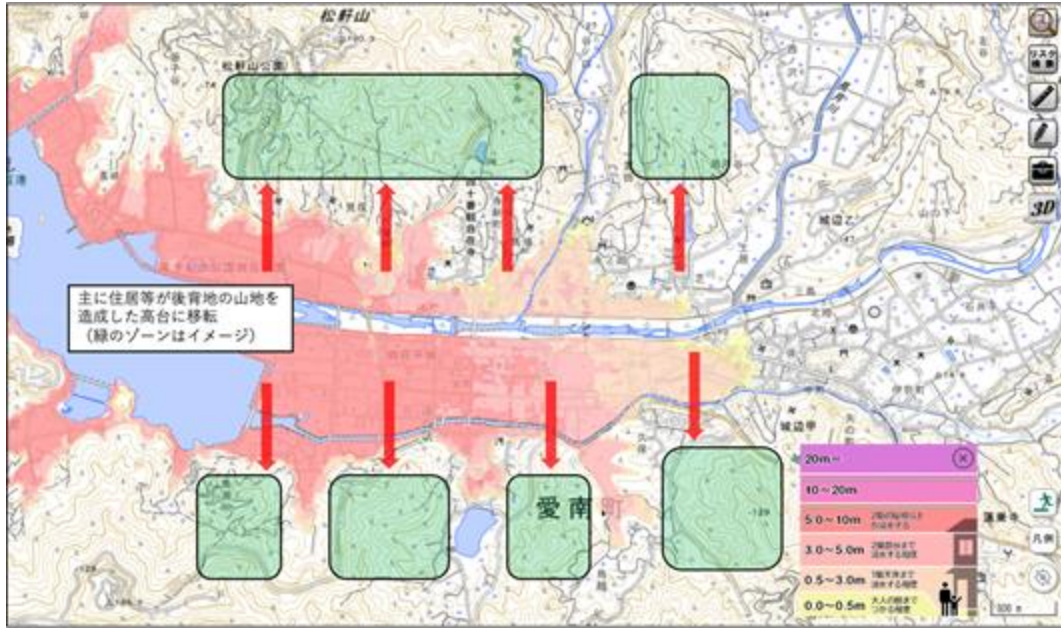
- ・ 御荘地区の人口は大きく減少し、コミュニティが分散する
- ・ 住み慣れた場所から離れる
- ・ 移転先の用地取得・権利調整等に時間がかかる可能性



◀ 宮城県山元町
震災を機に、内陸の
JR常磐線沿線の新市
街地への集約を目指す

全国町村会HPより
<https://www.zck.or.jp/site/forum/21479.html>

②後背地での高台造成＋移転シナリオ



◀宮城県女川町
造成時に発生した土で
低地のかさ上げも実施

鹿島建設ホームページより
https://www.kajima.co.jp/tech/c_great_east_japan_earthquake/deconstruction/deconstruction03/

御荘地区の市街地の後背の山地を造成し、住宅等を
中心に移転させる
東日本大震災からの復興で多くみられた

▶ メリット

- ・津波の心配が全くない場所に住める
- ・現在の市街地から大きくは離れない
- ・河川の水害リスクも回避できる

▶ デメリット

- ・盛土や斜面による土砂災害リスク
- ・今まで住み慣れた場所から多少移動する
- ・高台同士や高台～平野部の行き来が大変になる
(移動距離の増加、坂道の往復など)

③旧市街のかさ上げを組み合わせた復興



旧道を中心に、
都市機能や住居の集約と
最低限のかさ上げを実施

収容しきれない機能は
中洲の部分的なかさ上げで対応

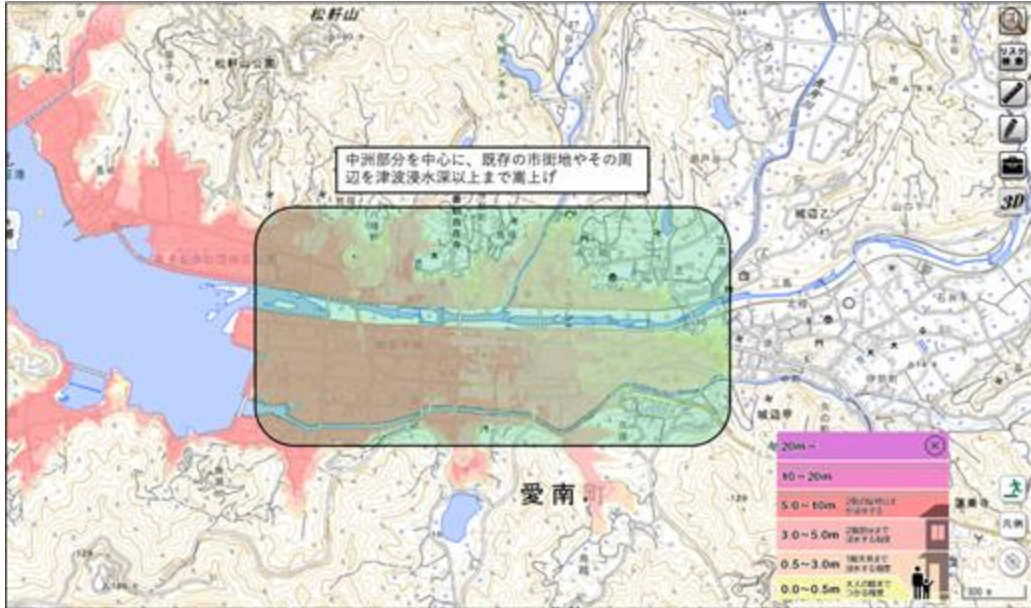
▶ メリット

- ・ 現在の市街地から大きくは離れない
- ・ 市街地が集約されて、コンパクトで便利になる
- ・ 遍路文化の継承と地域の活性化を見据えやすい

▶ デメリット

- ・ 津波の被害を受けた場所で、津波のリスクが残った状態で生活し続ける
- ・ 旧道沿いの交通基盤が要改善
- ・ 旧道沿いの入り組んだ土地の権利調整が必要

④現在の市街地を大きくかさ上げして復興



◀岩手県陸前高田市
東日本大震災被災地
では最大級のかさ
上げを実施

UR 都市再生機構 HP より
<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress65/special4.html>

中洲を含め、現在の市街地を津波による浸水深を超える高さまで大きくかさ上げして、従来の街の構造を大きく変えずに復興。

▶ メリット

- ・ 現在と近い街の構造を維持できる
- ・ 河川の水害リスクも回避できる
- ・ 中洲の広い土地や道路交通基盤を有効活用できる

▶ デメリット

- ・ 莫大な時間と費用がかかる
- ・ かさ上げ範囲では地権者の合意形成・調整が必要
- ・ スポンジ化した市街地が漫然と広がるリスク